

令和元年度 小平市立小平第五小学校 学校評価計画表

学校教育目標 すすんで学び 元気で 思いやりのある子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 地域と連携し地域とともに歩む学校(家庭・地域と協力関係を築き、互いに貢献し合う関係を目指す)
- 【目指す児童・生徒像】 何事にも本気で取り組む 子ども (子ども自らが知識を身に付け、すすんで学習に取り組む)
- 【目指す教師像】 「教えるプロ」としての自信をもち、使命感をもって教育に取り組む教師 (分かる授業 考える授業 ともにつくる授業)

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果: 研究を通して「児童の追究する力の向上と関わり合いの向上」が見られた。いじめに対する組織的対応を進められた。行事や会議の精選を進めることができた。
 課題: 必達目標をさらに明確にし、基礎・基本の定着を確実に進める。時間内の学年会などを有効に機能させたり、職員室の改革を進めたりするなどさらに働き方改革を進める。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	全教員が、校内研究等で研究医授業を行うとともに、毎学期の授業観察では授業のチェック表に基づいて授業を自己分析し指導を受ける。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に問題解決に取り組む授業づくりを今後も進める必要がある。 ・授業のチェックシートの活用を進める。 ・学年会を充実させ、チームで授業づくりを進める。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営協力者の方などからは、児童が落ち着いて授業を受けている姿を肯定的に評価していただいた。 ・保護者評価では、読書に対する児童の取組状況に2極化が見て取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を通して、主体的に問題解決に取り組む姿を多く引き出すことができた。 ・主体的、対話的で深い学びをさらに進めるために、今後は話し合い活動を充実させていきたい。そのための教員研修なども積極的に進んでいく。
	各学年毎に学びの「必達目標」を設定し、基礎的・基本的内容の定着を図る。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・必達目標に対する教員への周知は進んでいる。 ・補習日を活用し、基礎的・基本的内容の定着をさらに進める。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・補習日の活用など、計画的に進めることができた。 ・文科省の学力調査は平均上だったが、東京都の学力調査で一部の内容の習得が不十分であることが確認された。 ・ベーシックドリルの活用など、習熟が不十分な教科や内容へのきめの細かい指導を進める。 	
いじめ防止	いじめに関する授業を年5回実施し、いじめゼロを目指す。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ授業について、道徳部とも連携して着実に進めることができている。いじめ授業に限らず、全教育活動を通して人権意識の向上を図っていく。 ・毎週木曜日に人権教育の研修を実施し教員の人権意識も高めていく。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営協力者の方などからは、引き続き人権感覚豊かないじめのない学校をつくってほしいと期待をいただいた。 ・保護者からは、いじめ対応について約2割の方から不十分の評価をいただいた。重く受けと 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ネット安全教室」「いじめ防止教室」、毎学期のいじめ防止授業を展開したことが、いじめに対する児童の意識向上につながった。 ・人権研修を日常的に行うことはとてもよかった。教師の人権意識を高めることが、結果的にいじめ防止の学校風土を
	いじめ調査を定期的に行い、実態を把握して組織的な対応に取り組む。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査はもとより、3、5年でQ-Uアンケートを実施して児童理解を進めた。 ・いじめにつながる児童の行動に対して、すぐに学年、生活指導部等が連携して起きたその日のうちに対応することができている。継続する。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査、3、5年でQ-Uアンケート、5年生を対象とした全員面談と、いずれも効果的だった。 ・いじめの兆候をとらえたら、学年、特別支援コーディネーター、養護教諭などと連携して、組織的に素早く対応する体制を今後も堅持する。 	
業務改善(働き方)	タイムカードで、一人一人が出退勤について自己管理できるようにする。 勤務が20時を超える場合は「やむを得ぬ残業の申請書」を提出す	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね、勤務のスリム化が図れてきている。 ・20時を超える場合は申請することを徹底していく。 ・学年での協働を進めることで、業務の合理化を今後も進める。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から、教員の働き方改革と、地域行事への参加のバランスが難しいとのお声をいただいた。 ・コミュニケーションスクールになることを通じて、地域と学校の連携がさらに進むといいとのお声もいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務をスリムにするために、見直しをもって職務を進めようとする「個」の意識改革が進んできている。 ・20時以降に残る職員は、4月当初より目に見えて減っている。 ・今後も業務のスリム化と働き方改革を進めていく。
	時間割を工夫し授業時間中に実施する学年会設定、会議の効率化、行事の精選をすすめる。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割はできている。せつかく学年会を時間内にできる環境にあっても、補教が入るなどして十分に活用されないこともあることが課題である。 ・主任には、週の計画簿に学年会の内容を明記させるなど、見直しを持って学年会の運営を進めさせる。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の理解を今後も図りつつ、地域とともにWin-Winの関係をさらに築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任が見直しをもって学年経営できているところは、協働も進んでいる。 ・講師や非常勤教員をできる限り配置し、来年度も少しでも余裕と見直しをもった学級経営、学年経営を進めさせる。
	コクヨ株式会社の協力を得て、職員室とその周辺のオフィス改革を進める。そのためのコアメンバーを決めて、具体的に改革を計画・推進する。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室改革については、職員室前の元トイレの整備を進めることができた。職員室の棚がすっきりした。 ・職員室の事務機の移動を進めたいが、行事等の関係で、落ち着いて進めることがなかなかできていない。 	4	3		<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に、職員室の事務機の配置換え、男子更衣室の新設など、一気に職員室改革を進めた。 ・新しい職員室の課題と対応を進めるためのプロジェクトチームを設けて、引き続きオフィス改革を進める。